

III 実現に向けた取組み

実現に向けた取組み

1 時代を先取りする

- ・世界最先端のクオリティーを持つコンテナターミナルの整備
- ・東アジアとの高速物流ネットワークの拠点づくり
- ・アジアとの物流情報ネットワークの構築
- ・戦略性に富む国際物流拠点の形成
- ・国際物流に対応した先進的な取組みの推進
- ・アジア・クルーズの拠点づくり
- ・中央・博多ふ頭地区におけるアジアとの交流拠点づくり
- ・都心部と連携したおもてなしの都市づくり

2 効率的で機能的な港湾運営を実現する

- ・港のリノベーション
- ・箱崎ふ頭地区を核とした物流機能の再編
- ・都心部ウォーターフロントの段階的な再編
- ・須崎ふ頭地区における都市的土地利用への転換
- ・荒津地区におけるスポーツ・レクリエーション空間の創出

3 海を活かし、都市との調和を図る

- ・弾力的な土地利用へのギアチェンジ
- ・官民協働による新たなランドデザインづくり
- ・福岡のまちを楽しんでもらう仕組みづくり
- ・エコパークゾーンにおける新たな環境モデルづくり
- ・みなとづくりと環境の保全と創造の両立
- ・緑に包まれた美しいみなとづくり
- ・水域の活用による博多湾の賑わいづくり
- ・災害に強いみなとづくり
- ・広域交通ネットワークの充実・強化

戦略とその実現に向けた主な取組み



Ⅲ 実現に向けた取組み

- 「アジアの中で輝きを放つオンリーワンのみなとづくり」という基本理念を掲げ、物流・人流・環境という3つの視点から、博多港の将来像と戦略を描いてきましたが、ここでは、その将来像をどのように実現していくのかといった取組みについて提案します。
- 実現に向けた取組みについては、「時代を先取りする」「効率的で機能的な港湾運営を実現する」「海を活かし、都市との調和を図る」という3つの観点から提案します。

1 時代を先取りする

アジアの経済成長に牽引され、博多港の物流・人流は、これからも拡大していくものと見込まれます。
これらの需要に適切に対応するためには、単に必要な社会資本を整えるだけでなく、知恵や工夫をこらして、時代を先取りするスマート（賢い）な施策が必要です。

2 効率的で機能的な港湾運営を実現する

博多港においては、豊かな博多湾の自然環境を大切にしながら、今ある資産を最大限活用することで、コンパクトで効率的、かつ機能的なみなとづくりが必要です。
このため、既存ふ頭をうまく活用しながら、長期的な展望に立って、港湾機能の再編を進めていくべきです。

3 海を活かし、都市との調和を図る

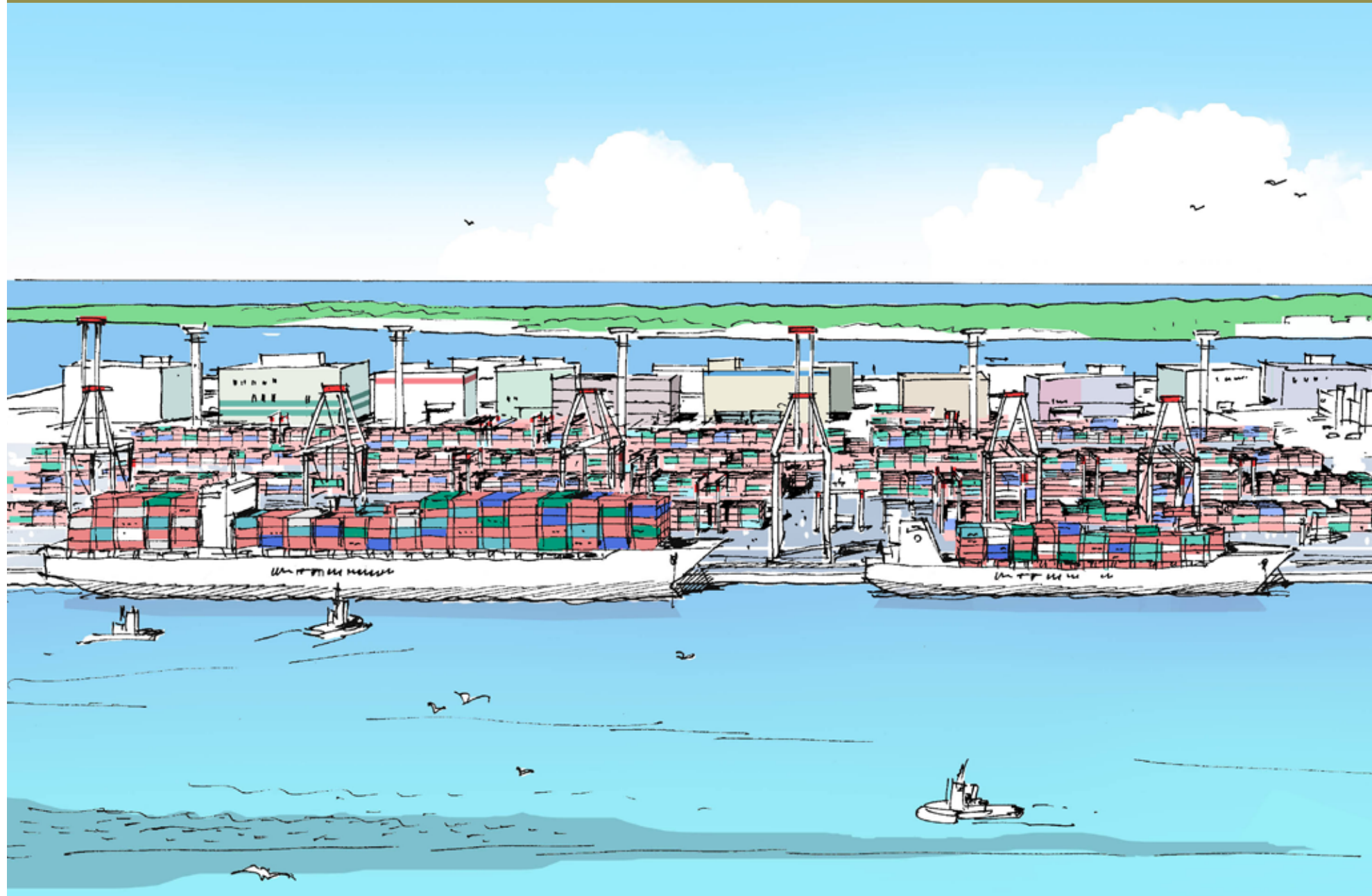
博多港は、都市の成長を牽引する形で、物流を中心として急速にみなとづくりを進めてきた結果、背後の都市開発との一体性に欠けています。
このため、都市の魅力である海を最大限活かしながら、みなとと都市が調和した新しい福岡の形をつくる必要があります。

Ⅲ 実現に向けた取組み 1 時代を先取りする

○世界最先端のクオリティーを持つコンテナターミナルの整備

- 博多港におけるコンテナターミナルについては、これまで、海運動向を注視し、必要性、緊急性等を十分に勘案しながら、順次整備を進めてきたところですが、需要に対して、供給が後追いしている状況にあります。
- 世界をラウンドする長距離基幹航路を拡大しつつ、「我が国の拠点港」としていくためには、世界最大級のコンテナ船の航行にも対応できる航路等の整備や、国際物流の拡大に適切に対応した新たなコンテナターミナルの整備等について、スピード感を持って取り組むべきであり、また、航路上の事故など緊急時における円滑な航行を確保するため、港内の海上交通路の動線についても検討し、安全・安心のみなとづくりを進めていくべきです。
- 一方、ロジスティクスセンターとしての港湾機能の質的向上も大切です。アイランドシティ地区においては、24時間のターミナル運営や全国に先駆けたITシステムの導入、荷役機械（トランスファークレーン）の電動化によるCO₂の大幅な削減等を実現する「アイランドシティ エココンテナターミナル」等、行政、民間事業者が一体となって取組みを進めてきました。このような先駆的な取組みをさらに拡げ、災害時にも業務が継続できるシステムの構築、コンテナターミナルの自動化や立体化等新たな取組みにチャレンジするなど、港の新しいモデルとして発信できるよう、物流の効率化や環境負荷の低減を図る、世界最先端のクオリティーを持つコンテナターミナルづくりに取り組むべきです。
- また、少量・多頻度化の物流ニーズにも対応するため、様々な貨物が混載されているコンテナについて、速やかに分別するためのノウハウと荷捌き機能を備える、小ロットでも丁寧に対応できる港湾施設の整備や、効率的な港湾運営に欠かすことのできない人材の育成も大切です。

アイランドシティ地区 コンテナターミナルの将来イメージ



Ⅲ 実現に向けた取組み

1 時代を先取りする

整備イメージ

世界最大級の超大型コンテナ船



MAERSK EVORA（欧州航路）

船長366.5m 幅48.2m 高さ70.0m
積載能力 13,102TEU
満載喫水 15.52m

アイランドシティ エココンテナターミナル



新たなコンテナターミナルの整備

さらなるコンテナ取扱量の増大
への対応

航路等の整備（十分な回頭エリアの確保）

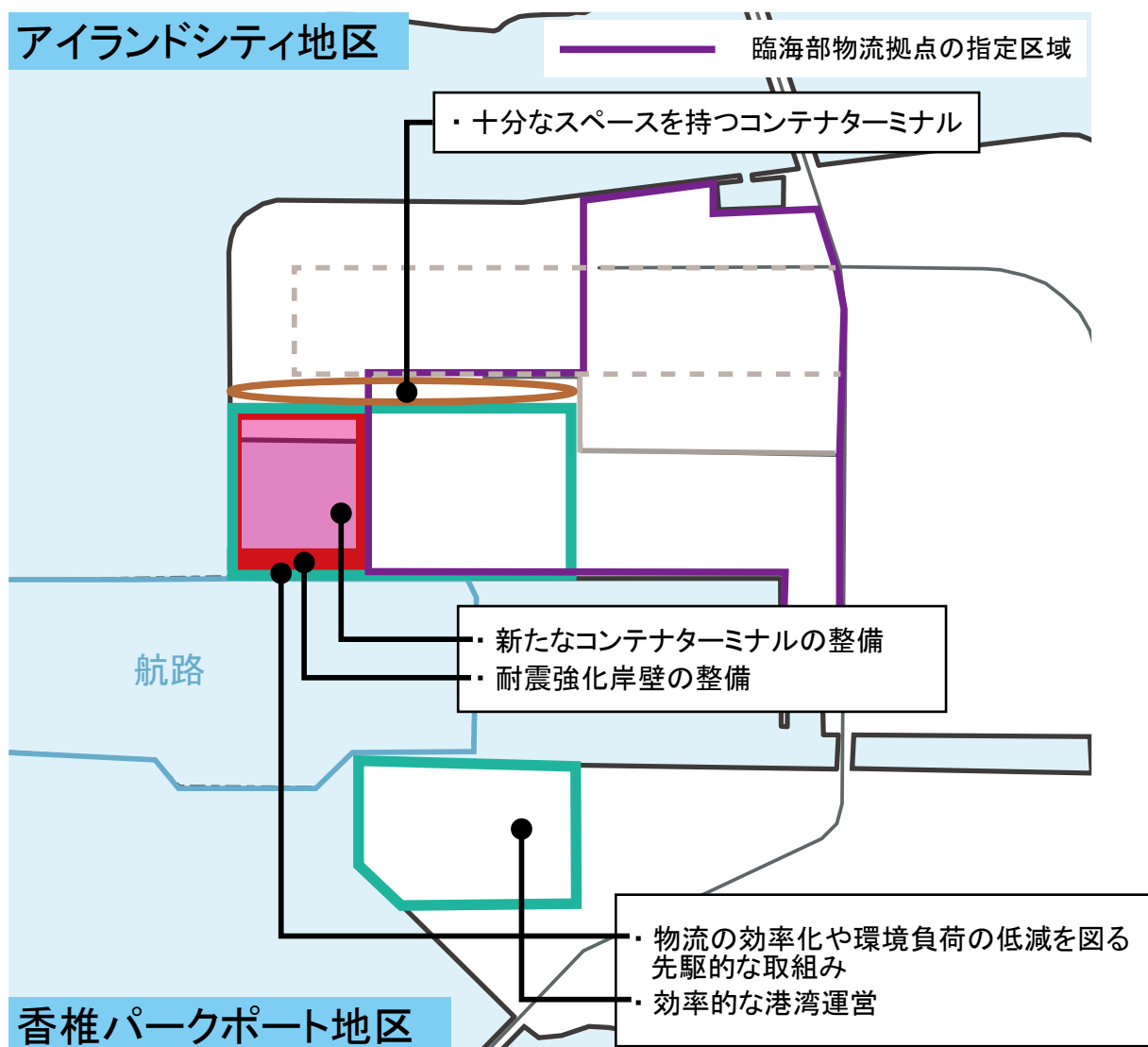
東航路

海上交通路の充実・強化

航路等の整備（十分な水深の確保）

防波堤の移設

整備イメージ



先進的な取組事例

■ 荷役機械の電動化（博多港）



■ 荷役機械の自動化（名古屋港）



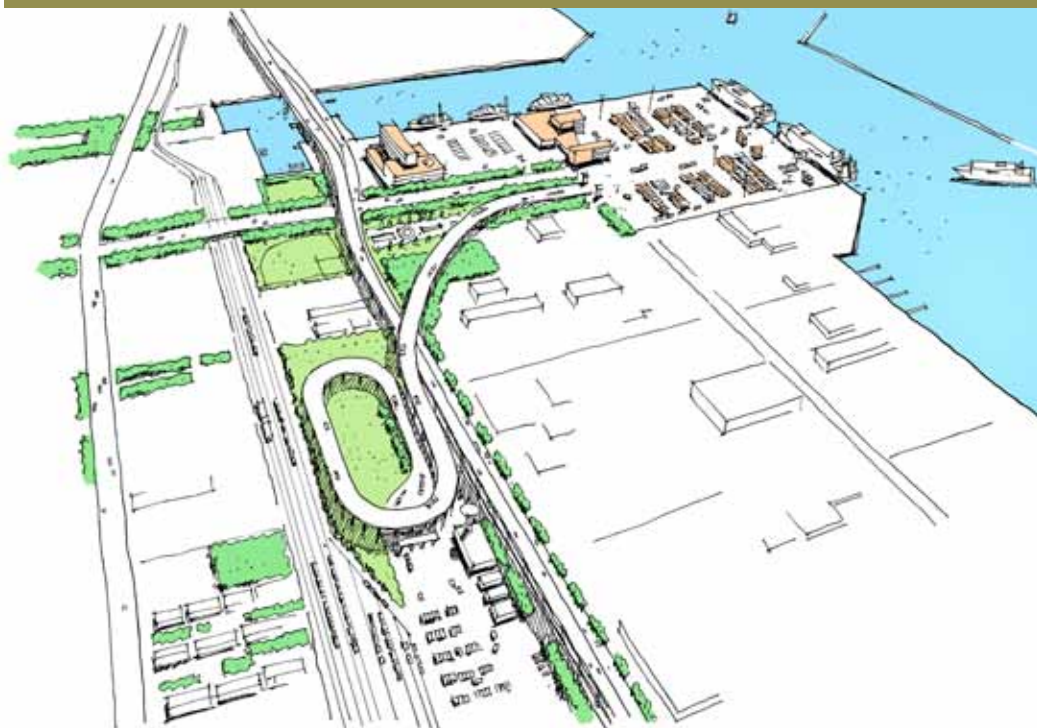
■ コンテナ立体格納庫（東京港）



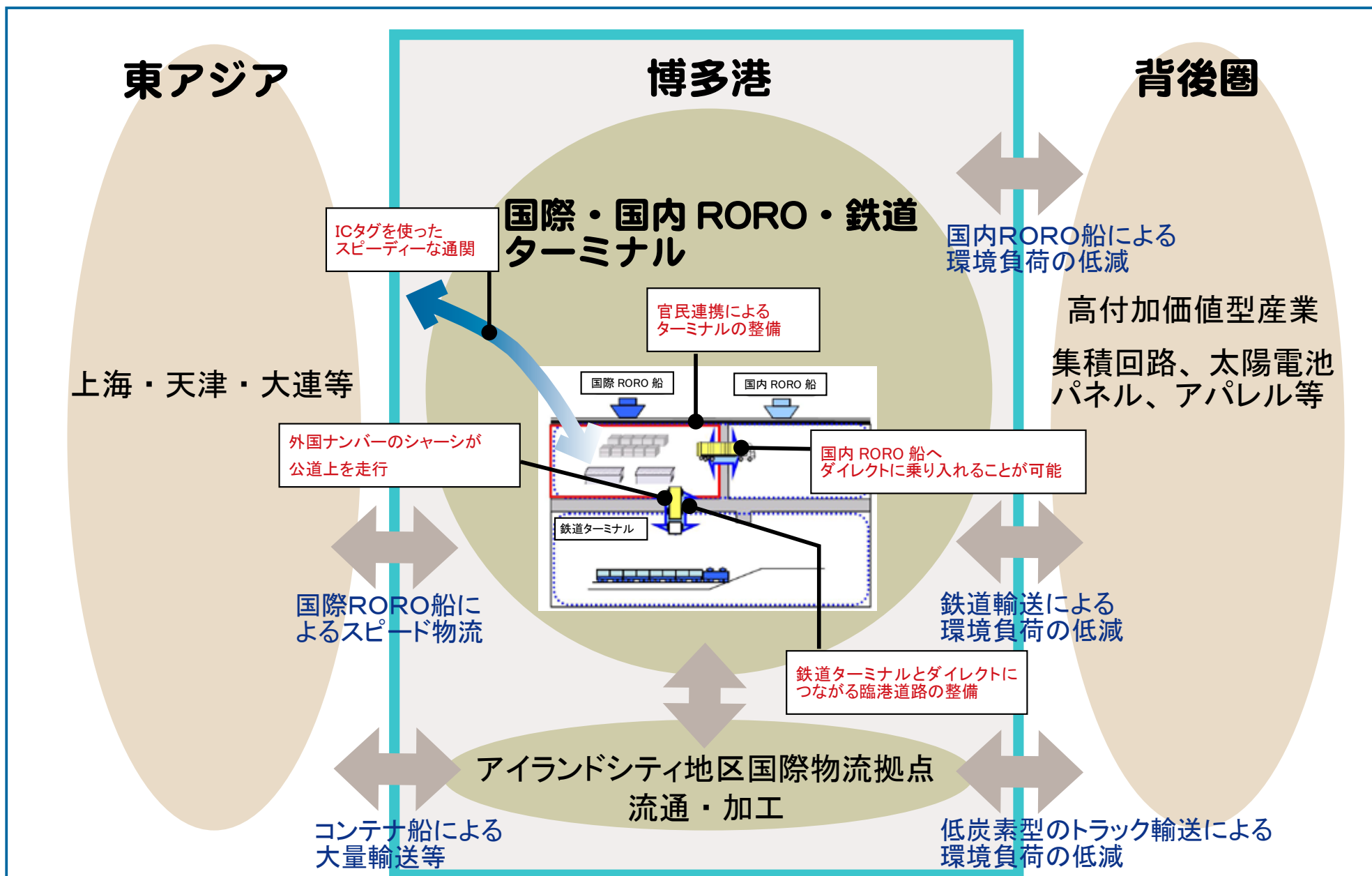
○東アジアとの高速物流ネットワークの拠点づくり

- 現在、上海と繋がる国際RORO船の増便や、天津などへの新たな航路開設の動きにあわせて、東京と繋がる国内RORO船が就航し、また、国内屈指の取扱量を誇るJR貨物福岡ターミナルが近接する絶好のロケーションを持つ、箱崎ふ頭地区において「国際・国内ROROターミナル」の整備が進められています。
- アジアとの物流は、ライフサイクルが短い高付加価値型製品を中心に、国内輸送と同等のスピードが求められることから、さらなる物流の効率化に向けた取組みが不可欠です。また、ROROターミナルの整備は、鉄道輸送や内航海運による、広く関西、関東圏からの高付加価値型製品の集荷に繋がるのみならず、我が国の運輸部門における環境負荷の低減に大きく貢献するものです。
- 具体的には、「国際戦略総合特区」制度を活用した、ICタグを使ったスピーディーな通関手続きや専用道路等を整備することで、特定区域内（JR貨物福岡ターミナル間）における日中間のシャーシの相互乗入を実現するなど、物流の効率化を図るための規制緩和に取り組むべきであり、このことにより、これからの東アジア物流を先取りする、高速物流ネットワークの拠点づくりを進めるべきです。

箱崎ふ頭地区 国際・国内 RORO ターミナルの将来イメージ



東アジアとの高速物流ネットワークの拠点づくり



○アジアとの物流情報ネットワークの構築

- 急速な国際経済・海運動向の変化にタイムリーに対応していくためには、リアルタイムな情報集積と情報発信が可能な国際競争力のある物流情報システムの構築が不可欠です。
- 博多港では、輸出入コンテナの行政手続きの進捗状況や位置情報等、現在の位置や状況が、携帯電話やインターネットで確認できる、全国に先駆けた最新鋭のITシステム（博多港物流ITシステム）を構築し、定時性の確保など円滑な物流に貢献しており、アジア諸港とのシステム連携を進めています。
- 今後は、アジア諸港との連携エリアのさらなる拡大を進めるとともに、ICタグを活用した通関手続きの簡素化等への応用など、物流の効率化に向けて様々な活用を図っていくべきです。

アジアとの物流情報ネットワークの構築



博多港物流 IT システム



○戦略性に富む国際物流拠点の形成

□上海や釜山などアジアの港湾の背後には、事実上国外扱いとなっている物流特区が形成され、ここでは、様々な税制優遇やインセンティブが講じられることで、物流産業の一大拠点が形成されています。博多港においても、背後圏経済の活性化や雇用の創出等の観点から、国際物流拠点づくりにスピード感を持って取り組む必要があります。

□このためには、自動車、集積回路、太陽電池等の高付加価値型製品や、アジアの富裕層向けの農産品など、博多港の背後圏の産業の特色等を活かした戦略性に富む取組みが不可欠であるとともに、「国際戦略総合特区」制度の活用等による、インセンティブ等の企業立地施策の充実を推し進めていく必要があります。

マルシェ（イメージ）



戦略的な取組み

総合特区制度を活用した環境配慮型製品の輸出拠点づくり
新青果市場の立地に伴う農産品の輸出拠点づくり 等

太陽電池パネル



博多港ロジスティクスセンター

国際物流拠点

製品の梱包、ラベリング、配送機能等の集積

LED



パワー半導体



フードコート（イメージ）



インセンティブ・税制優遇

〈国際戦略総合特区〉規制の特例措置
税制上・財政上・金融上の支援措置

環境配慮型高性能タイヤ



○国際物流に対応した先進的な取組みの推進

- 国際標準化機構（ISO）において、港に関する国際標準規格が定められており、博多港は世界に通じる港として、45フィートコンテナへの対応、環境負荷の低減を図る陸上電力の供給など、国際化の流れに対応した取組みを、他の港に先駆けて進めていくべきです。

45フィートコンテナの国内輸送実用化に向けた取組み

○平成20年には、世界全体の2%程度のシェアであるものの、EUや米国、中国等では既に公道での走行が可能となっており、欧米や中国などを中心に利用が拡大している。

○40フィートコンテナなどと比較して輸送効率が高いことから（容積：約27%増加）、物流の効率化やコストの削減、環境負荷の低減などに大きく貢献する。

45フィートコンテナを輸送するアメリカ大陸横断鉄道



船舶への陸上電力供給

○接岸中の船舶が必要とする電力を、船内発電から陸上施設による供給に切り替えることにより、CO₂、NO_x等の排出ガスを削減し、大気環境の改善を図るもの。

○陸上からの給電には、陸上側（送電側）および船舶側（受電側）において新たな設備投資が必要である。

○船舶の陸上電力供給の規格に関する国際基準は、ISOにおいて検討中である。

陸上電力供給の事例（ロサンゼルス港）



○アジア・クルーズの拠点づくり

- 博多港は、平成22年には外航クルーズ寄港回数が日本一となり、平成24年にはアジア最大級のクルーズ船「ボイジャー・オブ・ザ・シーズ」の寄港が開始されるなど、博多港は、我が国におけるクルーズ拠点港として、その存在感を高めています。
- 中国、韓国の経済成長に伴い、上海、天津、釜山等を起点としたショートクルーズ市場が、今後さらに拡大していくと考えられる中、博多港においては、これらのクルーズ需要に対応した受入体制の充実・強化が不可欠です。
- このため、中央・博多ふ頭地区においては、必ずしも十分な水深が確保できていないことから、大型クルーズ船に対応した安全な航行のための航路、泊地などの操船水域や十分な岸壁延長の確保、クルーズターミナルの整備等を視野に入れて、中央ふ頭地区先端部の埋立計画（平成13年港湾計画）の実現に向けて取り組むべきです。

クルーズの拠点港づくり

- 港湾機能の強化
- 受入体制の充実・強化

CIQ体制の充実



岸壁整備等による港湾機能の
充実・強化

新たなクルーズターミナル等
国際旅客ターミナル機能の充実・強化

安全な航行を確保
する航路等の整備

クルーズ需要の拡大への対応



外航クルーズ寄港回数
平成22年63回、平成23年32回、平成24年98回（予定）

アジア最大級のクルーズ船の寄港



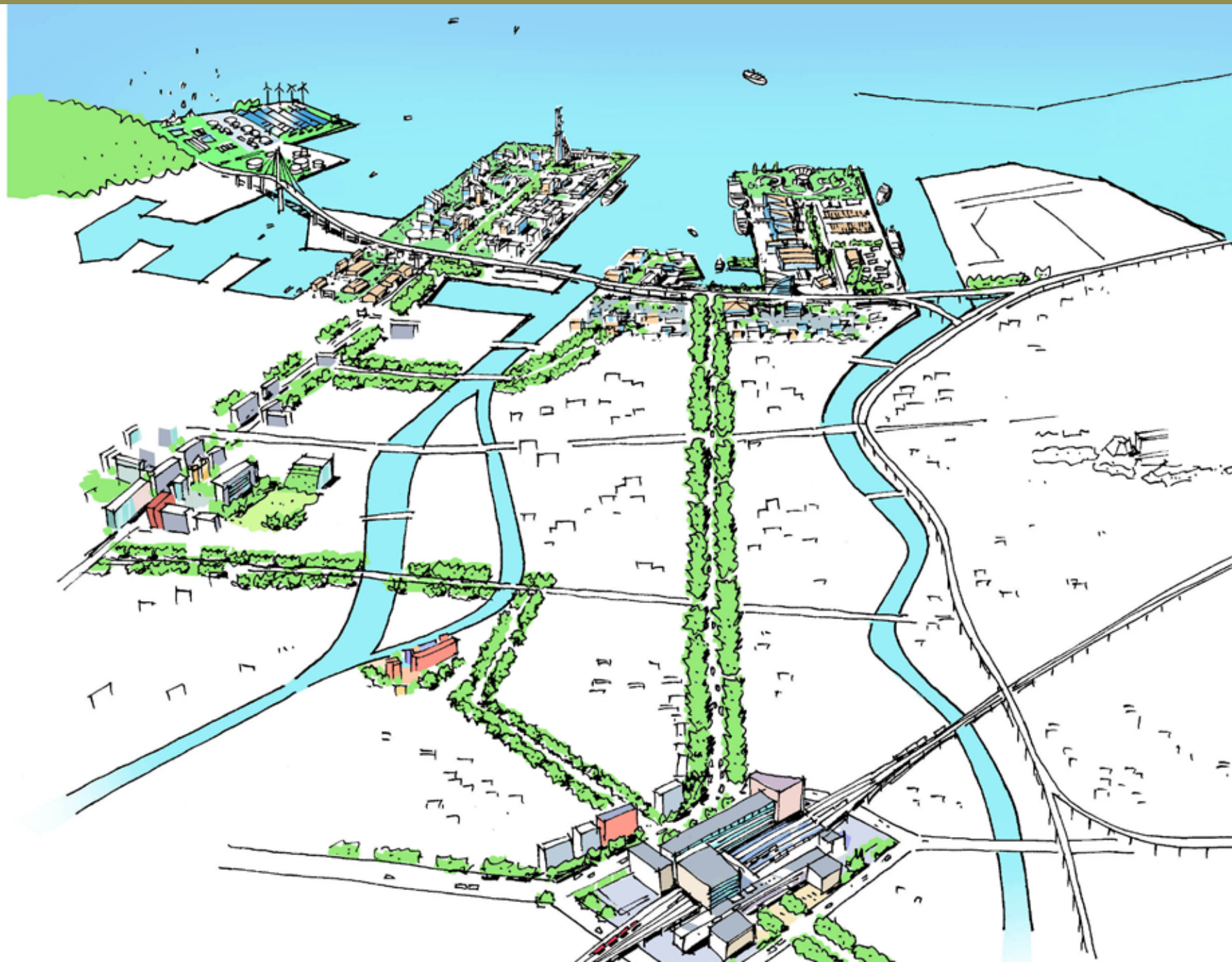
ボイジャー・オブ・ザ・シーズ
（平成24年6月より寄港）

○中央・博多ふ頭地区におけるアジアとの交流拠点づくり

- 中央・博多ふ頭地区については、人・もの・情報が交流する拠点づくりを進めてきましたが、今後の日中韓の交流拡大やコンベンション需要の増大等から、同エリア内での、人流と物流機能の両立は困難な状況にあります。このため、今後、中央ふ頭地区東側の物流機能について博多港内での再編を進め、新たな空間の創出や円滑な交通アクセスの確保等が必要となってきます。
- 中央・博多ふ頭地区においては、アジアの人を迎え旅立ちの起終点となる「旅客機能」、国内・アジア・世界との交流を深める「コンベンション機能」、福岡の先進性や食文化などを伝える「賑わいの機能」の三つの土地利用が交差する「アジアとの交流拠点」づくりを進めていくべきです。



博多駅上空から望む、中央・博多ふ頭地区の将来イメージ



○都心部と連携したおもてなしの都市づくり

- 外国からの来訪者が年間70万人を超える福岡では、「旅立ち」「やすらぎ」「郷愁」といった言葉から連想される港本来のイメージを大切にしながら、あたかも自国内と同様に、安心して訪れることができる、おもてなしの都市づくりが求められています。
- 福岡は、博多港と博多駅、福岡空港が近接しており、これらのエリア全体を“みなと”として、人々を温かく迎え、安心して旅立たせる拠点づくりが可能であり、このエリアにおいて、来訪者の視点に立った分かりやすい案内（デジタルサイネージの活用等）など、おもてなしの空間づくりに取り組むべきです。

おもてなしの取組み事例



クルーズ船の歓迎演出



歓迎バナー



穀物サイロに描かれた歓迎サイン



中国語表記による地区案内サイン



路面マーキング



アートコンテナ

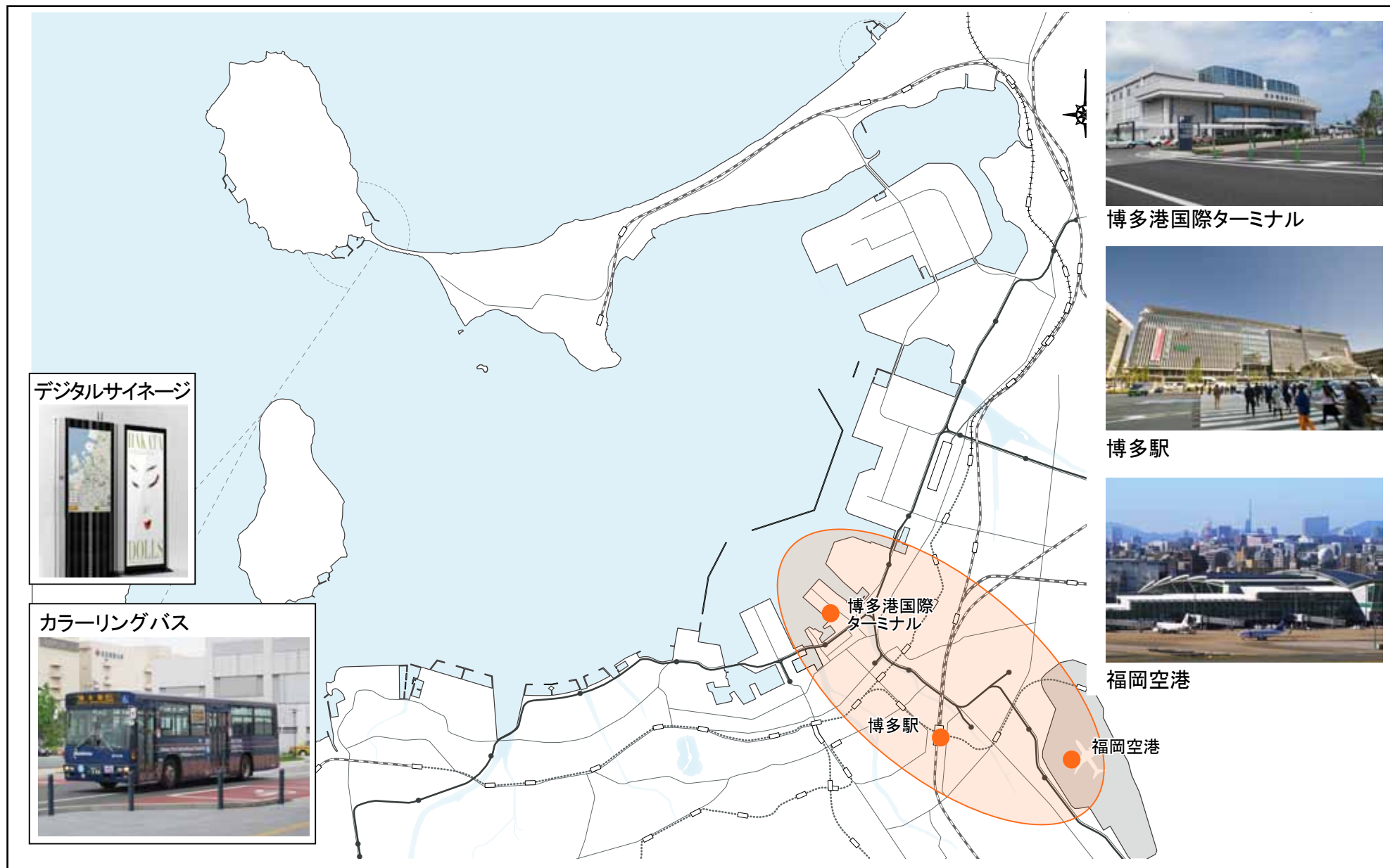


都市高速に設置された
ウェルカムサイン



通訳ボランティア

陸・海・空の港が集積するおもてなしの空間づくり



Ⅲ 実現に向けた取組み 2 効率的で機能的な港湾運営を実現する

〇港のリノベーション

- 博多港は背後の都市の成長に伴い、急速な港湾整備を進めた結果、昭和30～50年代に整備したふ頭については、穀物、鋼材、自動車などの物流機能が分散しており、港湾の活動や運営等の面で非効率な状況が生じています。また、これらのふ頭においては、更新期を迎えている施設も多くあります。
- 今後、既存ストックをうまく活用しながら、博多港のリノベーション（再生）を図るため、アセットマネジメントに取り組みながら機能更新に取り組み、施設の移転・集約を図ることで、物流の集約化・最適化、効率的な港湾運営を実現していくべきです。
- 機能の移転・集約等については、施設の稼働状況や将来の需要動向等を十分に見極めながら、必要に応じて新たな空間の確保を行い、長期的な展望に立って、順次、西側から東側へと再編していく必要があります。

※港湾機能の再編の方向性

<アイランドシティ地区>

コンテナ貨物を取り扱う博多港の国際物流拠点として、国際海上コンテナターミナル機能のさらなる強化や、これと一体となった臨海部物流拠点（ロジスティクスセンター）の形成に取り組んでいく。

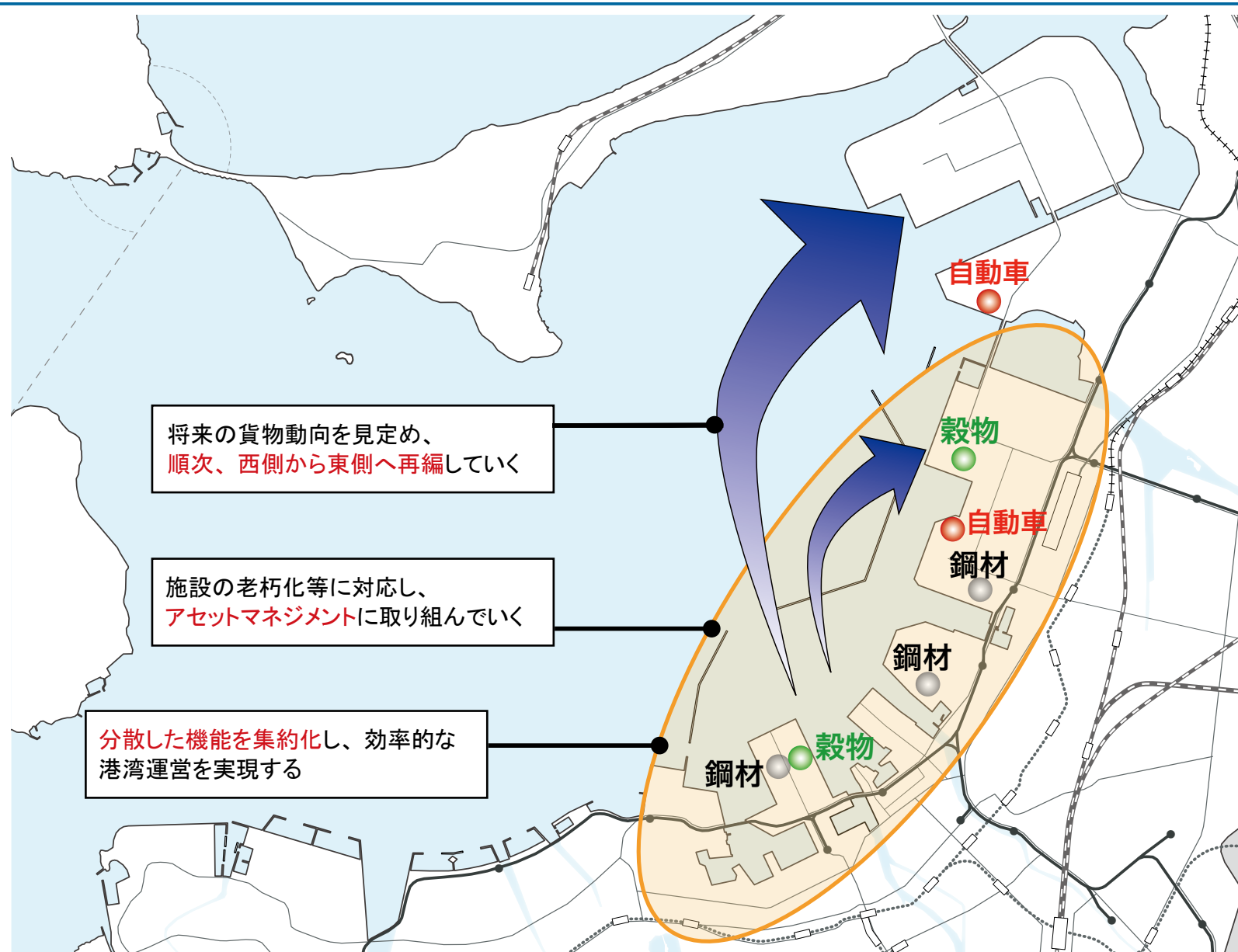
<箱崎ふ頭地区>

穀物、青果物、自動車、鋼材、リサイクル資材など、多様な貨物を取り扱い、背後には物流センターが集積する博多港最大のふ頭であり、その特徴を活かして、コンテナ貨物以外の物流機能の再編を進めていく。

<中央ふ頭～須崎ふ頭地区>

必要な港湾機能との調和を図りながら、都心部ウォーターフロントの魅力ある土地利用への転換を段階的に進めていく。

港湾施設の移転・再編のイメージ



○箱崎ふ頭地区を核とした物流機能の再編

□箱崎ふ頭地区は、穀物、青果物、自動車、鋼材、リサイクル資材など、多様な貨物を取り扱い、背後には物流センターが集積する博多港最大のふ頭です。また、近接してJR貨物福岡ターミナルや都市高速道路、北九州と福岡を繋ぐ幹線道路ネットワークが位置する交通利便性の極めて高い、地理的条件を備えています。

□このため、博多港の物流機能の再編（コンテナ貨物以外）は、箱崎ふ頭地区を中心に考えていく必要があります。

※再編の手順

当面の重点的な取組み

■モーダルシフトの拠点として「国際・国内ROROターミナル」を整備するとともに、箱崎ふ頭地区内の交通アクセスの整備に取り組む。



中期的な取組み

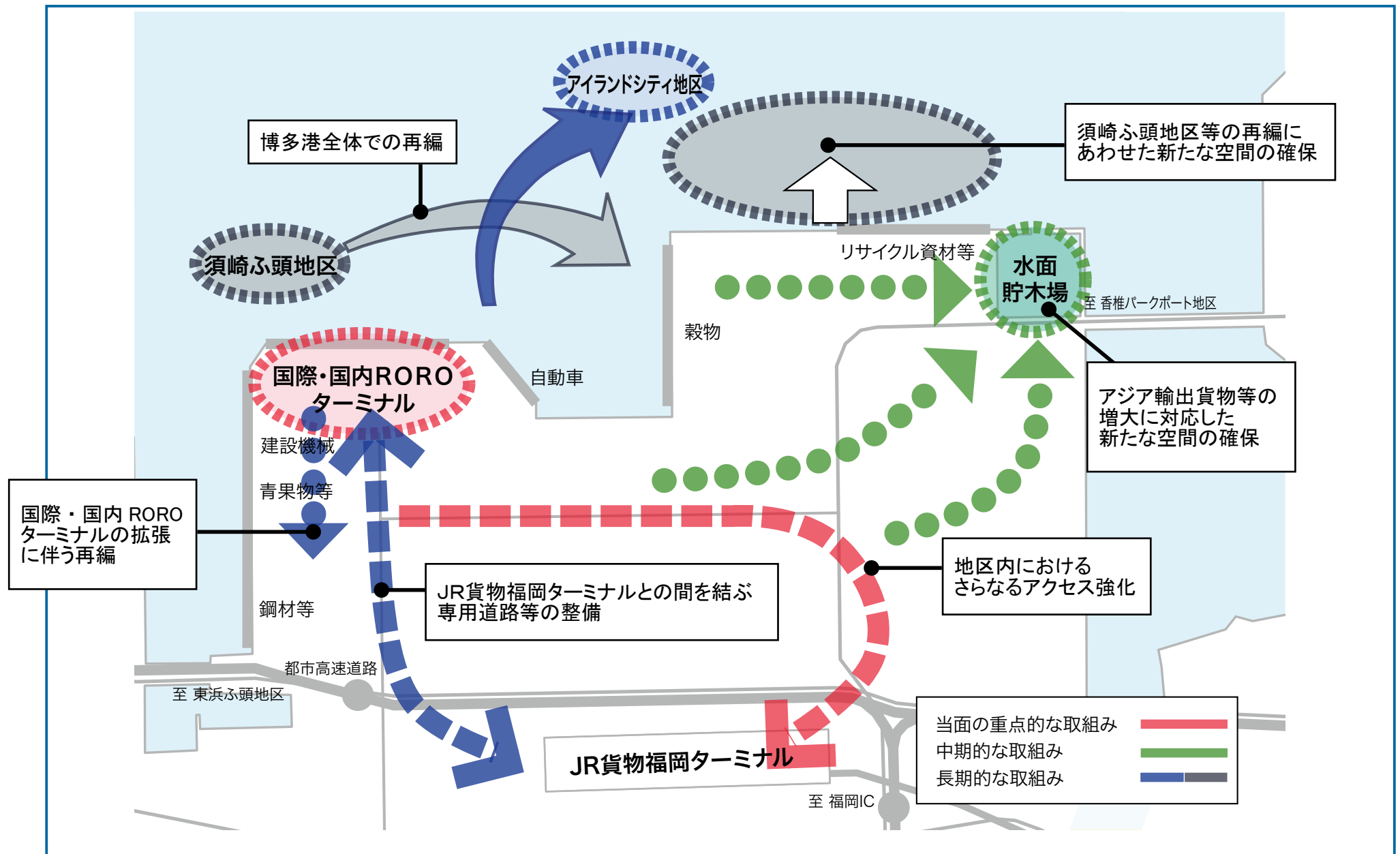
■リサイクル資材や中古建機等、アジアへの輸出拡大に対応した港湾機能の強化を図るとともに、効率的な港湾運営を実現する観点から、地区内の機能の再編を進めるため、埋立てにより新たな空間を創出する。



長期的な取組み

■「国際・国内ROROターミナル」とJR貨物福岡ターミナルを繋ぐ専用道路等の整備やエリア内の再編を進める。
■博多港全体での再編を進めるため、新たな空間の創出について検討していく。

再編のイメージ



○都心部ウォーターフロントの段階的な再編

- 都心部ウォーターフロントの魅力ある土地利用への転換については、必要な港湾機能との調和を図りながら、段階的に進めていく必要があります。特に、博多港の生活港湾機能を代表する穀物取扱機能等、博多港全体で大きな移転・再編を伴うものについては、長期的な展望に立って検討する必要があります。
- このため、アジア・クルーズへの対応やコンベンション機能の強化が喫緊の課題となっている中央・博多ふ頭地区から、まずは再編に着手するとともに、須崎ふ頭地区については、港湾物流の今後の動向やまちづくりへのニーズなどをとらえて、ふ頭基部から順次、魅力ある土地利用への転換を進めていく必要があります。
- また、都心部ウォーターフロントを魅力ある土地利用に転換していく前提として、天神、博多駅等都心部との交通アクセスの充実が不可欠であり、軌道系アクセスの導入や特色のある観光バスの運行等、多様な交通手段で結びつけていくことが必要です。

※再編の手順

当面の重点的な取組み

- 中央・博多ふ頭地区におけるクルーズ拠点づくりやコンベンション機能の強化を進めるとともに、背後地域との交通アクセスの強化に取り組む。



中期的な取組み

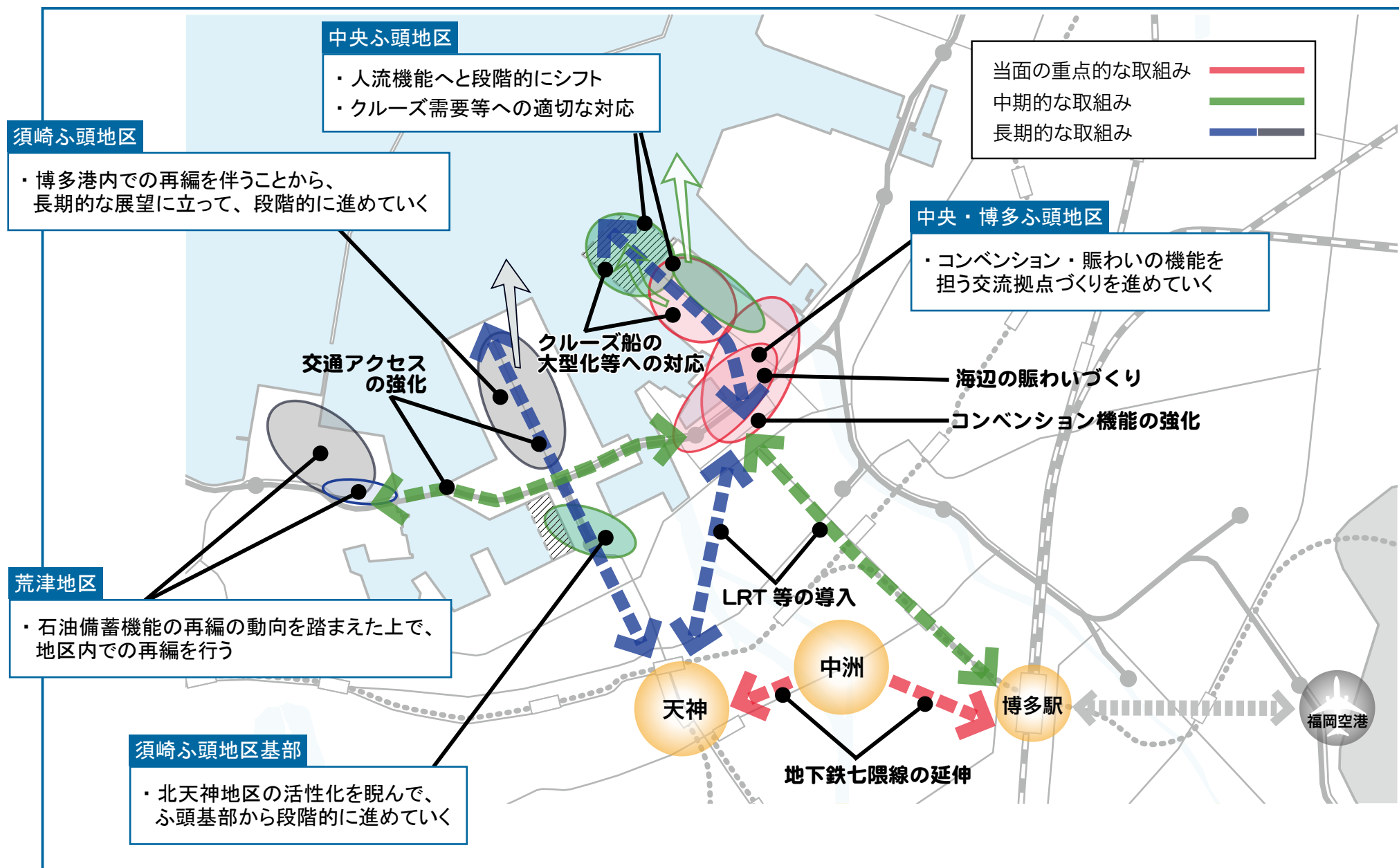
- 中央・博多ふ頭地区における人流の拠点づくりを進めるとともに、須崎ふ頭地区基部の魅力ある土地利用への転換や、その前提となる交通アクセスの強化に取り組む。



長期的な取組み

- 都心部（天神・博多駅地区）～ウォーターフロント間のさらなるアクセス強化を進めることで、須崎ふ頭地区北側の魅力ある土地利用への転換を誘導していく。

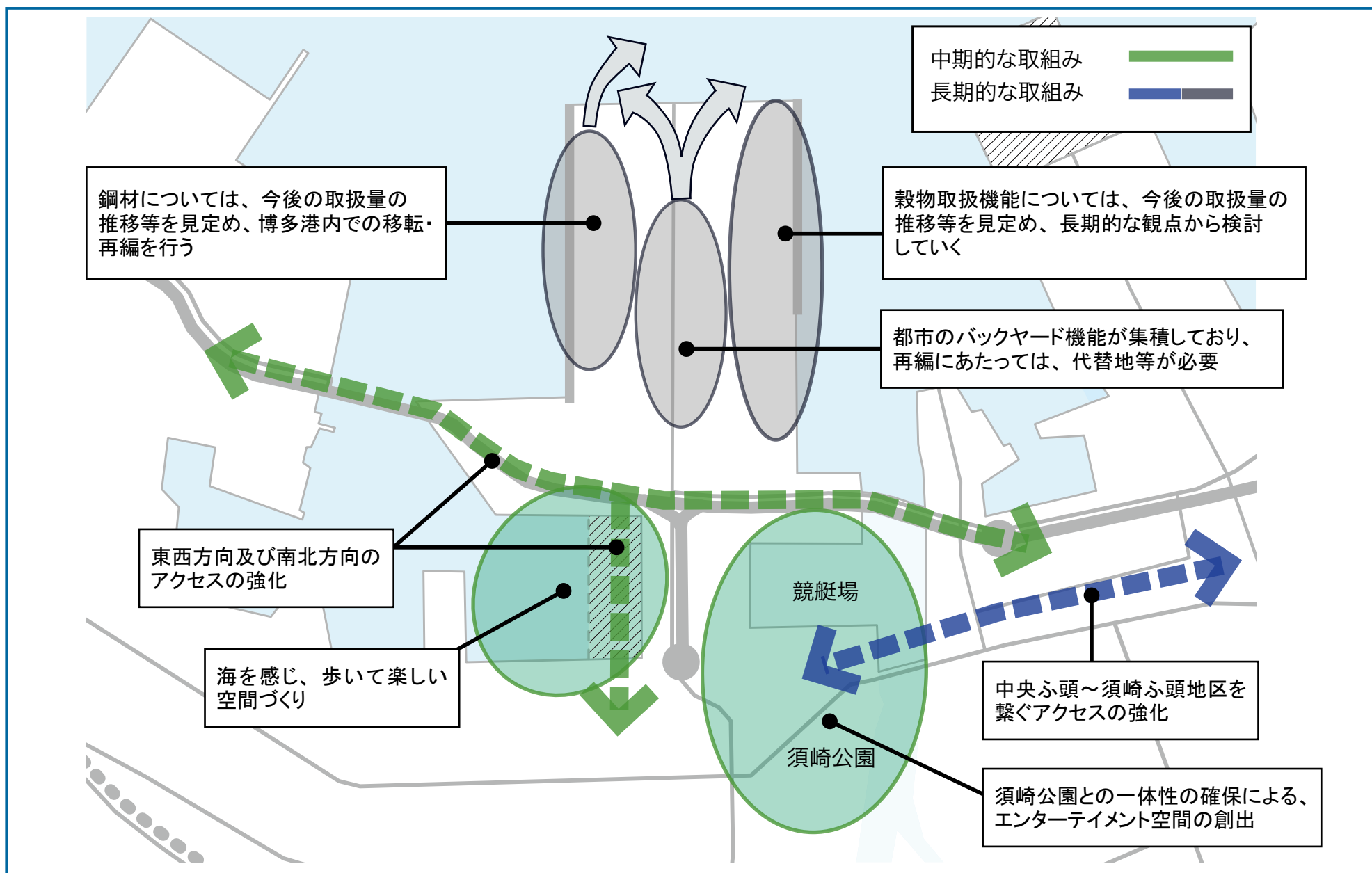
都心部ウォーターフロントの再編のイメージ



○須崎ふ頭地区における都市的土地利用への転換

- ☐ 須崎ふ頭地区については、九州に輸入される食用小麦の多くを取り扱う九州有数の穀物基地として、また、住宅建材等を取り扱うふ頭として、背後圏の市民生活や経済活動を支える重要な役割を果たしています。
- ☐ このため、港湾機能と整合を図った魅力ある土地利用への転換については、今後の需要動向等を十分に見極め、関係者の理解と協力を得ながら、長期的な展望に立って取り組むとともに、須崎ふ頭地区のみならず、北天神地区等の活性化などを視野に入れ、広域的かつ総合的な観点から、検討を進めていく必要があります。
- ☐ 須崎ふ頭地区に隣接する北天神地区については、須崎公園を中心としたエンターテイメント空間づくりを進めるとともに、あわせて、須崎ふ頭地区基部における既存倉庫の再編等について検討し、海を感じ、歩いて楽しい空間づくりに取り組むべきです。
- ☐ また、このように須崎ふ頭地区の魅力ある土地利用への転換の前提として、須崎ふ頭・荒津地区を結ぶ東西方向の道路の整備や、都心部に向かう南北方向の新たなアクセスの確保に取り組んでいく必要があります。

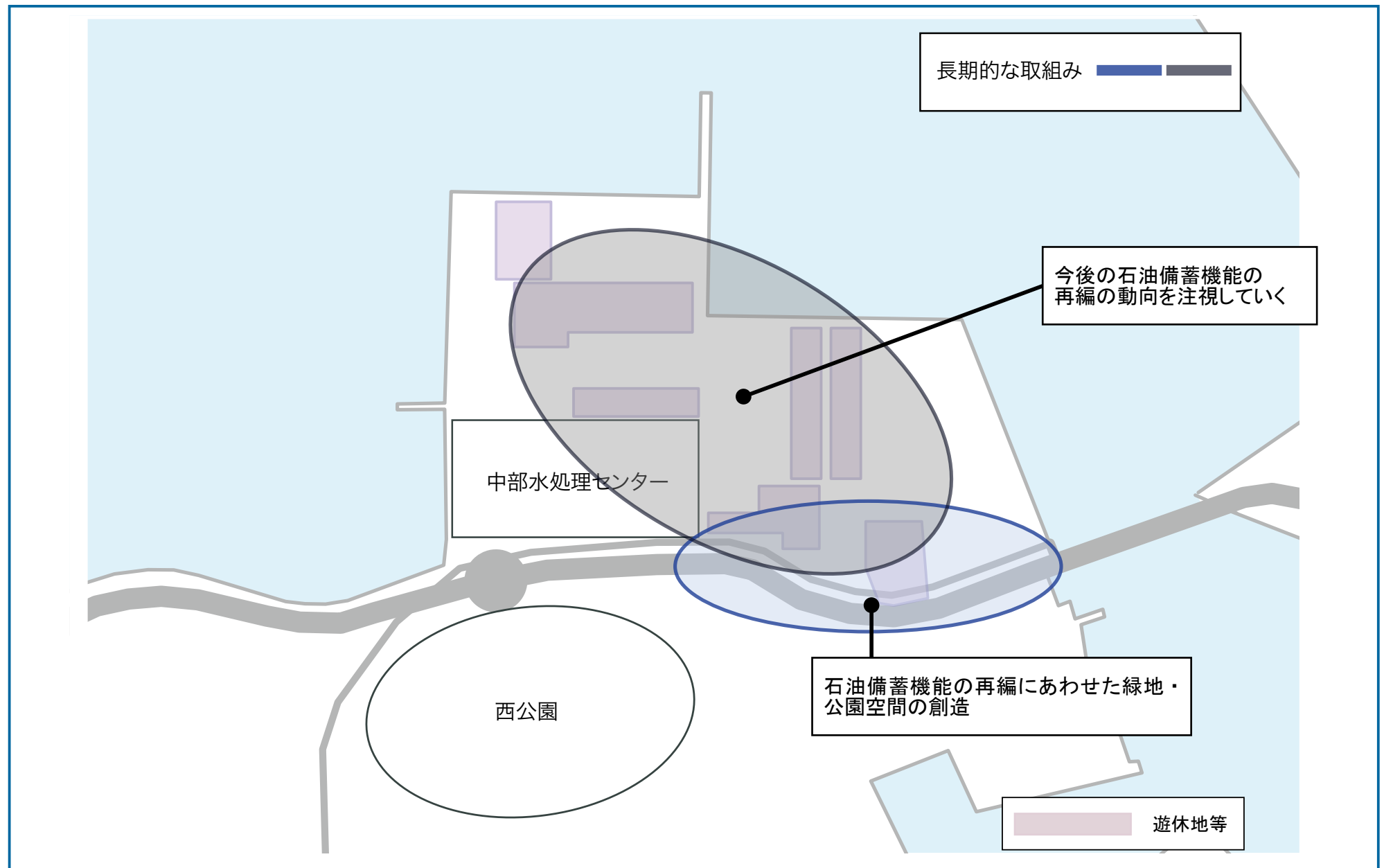
再編のイメージ



○荒津地区におけるスポーツ・レクリエーション空間の創出

- ☐ 荒津地区は、博多港における石油取扱機能を担う重要な地区ですが、民間主導による機能再編等により、全体の約4分の1の土地が遊休地化し、また、石油備蓄タンクの共用化も進んでいます。今後、石油エネルギーから自然再生エネルギー等への転換が進んでいく中、同地区の遊休地化は、さらに進んでいくものと考えられます。
- ☐ このため、今後の機能再編の動向を注視しながら、まずは、都市防災の観点から、緩衝帯としての機能を有する緑地・公園空間の形成に取り組み、都心部におけるスポーツ・レクリエーションを楽しめる空間づくりを進めていく必要があります。

再編のイメージ



Ⅲ 実現に向けた取組み 3 海を活かし、都市との調和を図る

○弾力的な土地利用へのギアチェンジ

- ☐ 港については、円滑な港湾活動を担保するため臨港地区を指定し、都市計画法による用途地域に優先する形で、「分区」による土地利用の誘導・規制がなされています。
- ☐ しかしながら、「分区」による土地利用の規制については、例えば、一般の貨物を取り扱う「商港区」においては、保管、流通・加工の機能の集積に対応しているものの、展示・販売などの機能の立地は困難であるなど、時代のニーズに合った弾力的な土地利用ができにくい面があります。
- ☐ このため、今後は、新しいみなとづくりを進めるアイランドシティ地区や都心部ウォーターフロントなどのエリアを対象に、ニーズに応じた臨港地区の指定の解除や分区条例の見直し等を行い、地域地区の特性に応じた土地利用を実現していく必要があります。

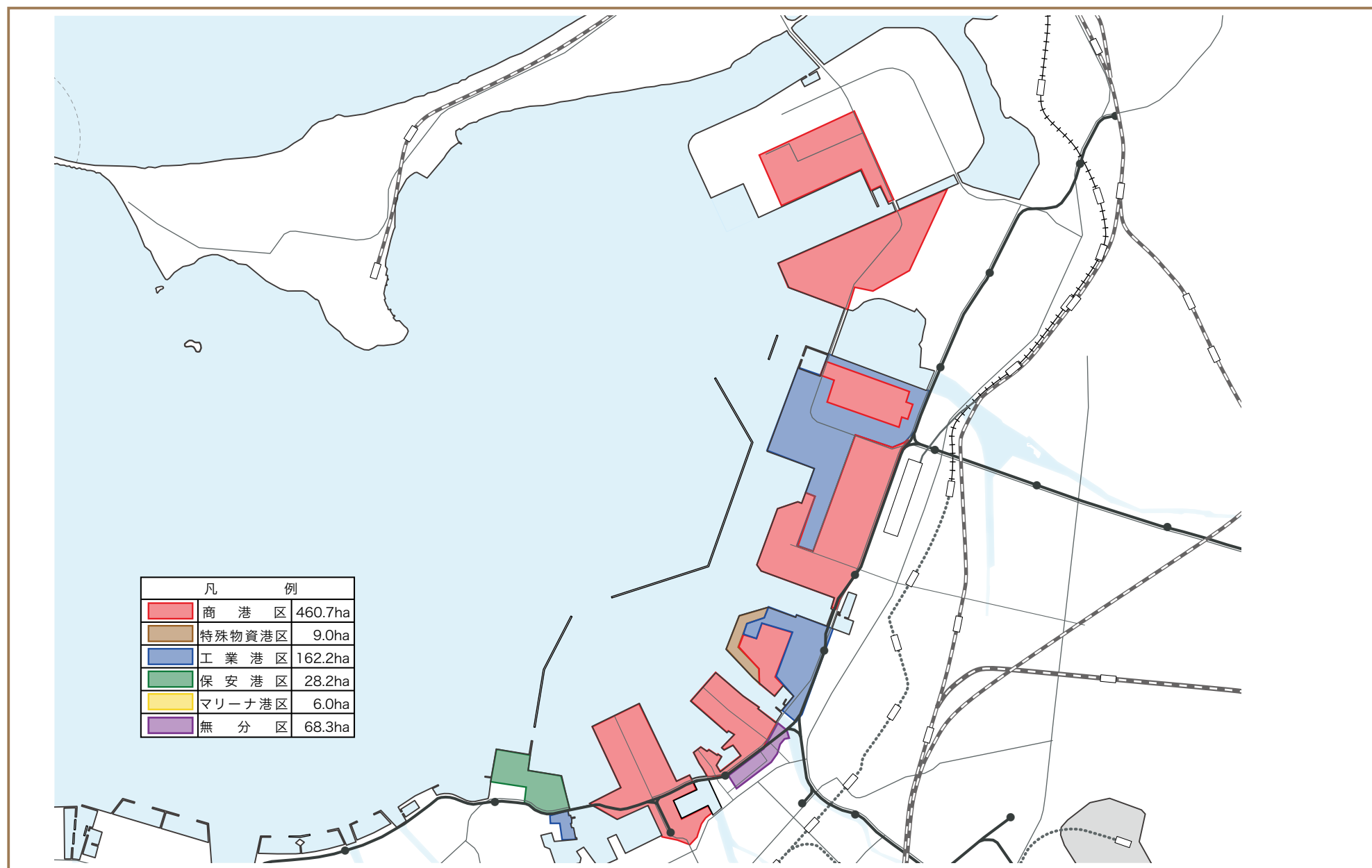
分区条例の概要

※分区とは、円滑な港湾活動を行うため、港にふさわしい土地利用が図られるよう、建築物やその他の構造物の用途などを規制するもの。

- ◆ **商港区** 旅客又は一般の貨物を取り扱わせることを目的とする区域
- ◆ **工業港区** 工場その他工業用施設を設置させることを目的とする区域
- ◆ **マリーナ港区** スポーツ又はレクリエーションの用に供するヨット、モーターボートその他の船舶の利便に供することを目的とする区域

等

分区の指定状況



○官民協働による新たなグランドデザインづくり

- 中央・博多ふ頭地区は、都心部における貴重なウォーターフロントですが、各施設間の連携や海への動線を意識した空間づくり、都市側からの視認性、心安らぐ海辺としての景観など多くの課題があり、これらを解決するため、思わず「海に行きたい」と感じさせるような仕掛けづくりが必要となります。
- このため、都市との連携を視野に入れた大胆な土地利用の転換を行い、行政、民間事業者が一体となって新たなグランドデザインをつくることで、「魅力ある海辺のステージ」づくりを進めていくべきです。

「魅力ある海辺のステージづくり」に向けて

〈アジアと都市を繋ぐ空間づくり〉

- 博多港を印象づける象徴的な空間づくり
- 円滑な交通を実現する交通結節機能の創出

〈海を感じさせる空間づくり〉

- 大博通りから海に抜ける軸線の確保
- 那の津通り以北のゲート性の演出
- ペDESTリアンデッキ等による回遊性の創出

〈アジアを彷彿させる魅力ある景観形成〉

- 緑の核と軸線づくり
- アジアの多様性や繁華性を取り入れたデザインづくり
- 博多の祭りや賑わいの演出
- みんなで関わる仕組みづくり

○象徴的な空間づくりのイメージ



シドニー オペラハウス



麗水世界博覧会 BIG-O

○博多の祭りや賑わいの演出

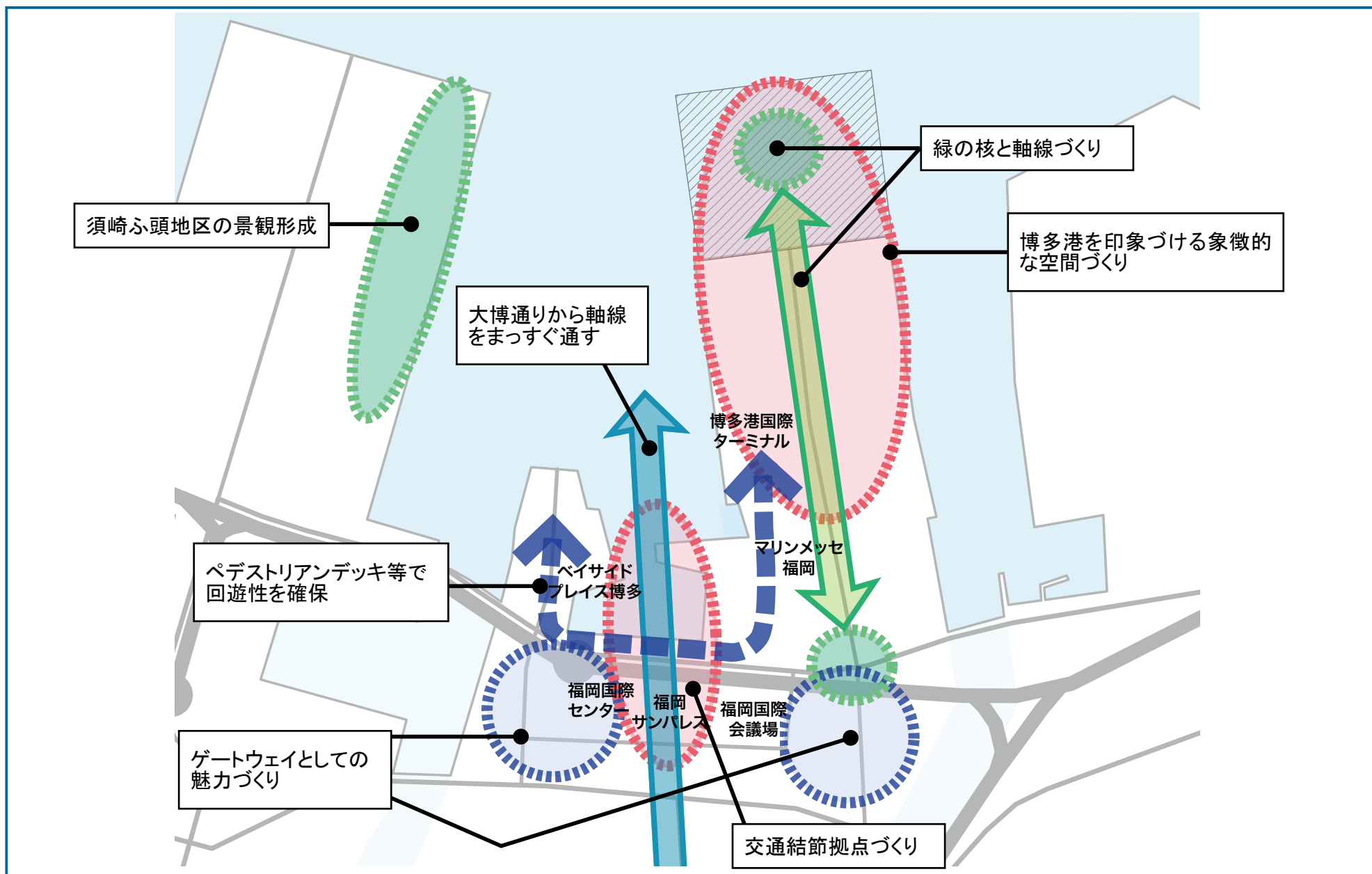


博多祇園山笠



博多どんたく港まつり

魅力ある海辺のステージ



○福岡のまちを楽しんでもらう仕組みづくり

- ☐ 福岡には、遣唐使の時代の迎賓館である鴻臚館や、日宋貿易を通じて建立された最古の禅寺である聖福寺、元寇防塁等、アジアとの繋がりを発見する物語性のある寺院や史跡が多くあります。
- ☐ これらは、ややもすると見過ごされてきましたが、アジアとの交流の歴史を際立たせることにより、福岡の魅力を高め、その奥行きをアピールすることができます。博多港を起点に歴史資源をうまく紹介し、福岡の観光ルートづくりに活かした取組みを進めるべきです。
- ☐ また、福岡の都市の魅力を際立たせ、来訪者に「福岡に来て良かった」、「また来てみたい」と思わせるような仕掛けづくりを行うことで、おもてなしの都市づくりを進めるべきです。
- ☐ 単に宿泊や買い物を目的とするだけではなく、福岡のまちを楽しみ、その良さを分かってもらえるよう、博多港を起点として、博多湾の自然を楽しんでもらい、福岡の観光スポットを結ぶ、賑わい、歴史、産業等テーマ性のある水上の回遊ルートの創設に取り組むべきです。

アジアとの繋がりや港の魅力を再発見



○エコパークゾーンにおける新たな環境モデルづくり

- 国内有数の渡り鳥の飛来地である和白干潟を含むエコパークゾーンにおいては、国内でもあまり例を見ない絶好のロケーションを活かして、多様な生物の生息環境の創造及びCO₂の吸収源確保に寄与するアマモ場の造成や海岸の整備等を進め、エコパークゾーン全域を人と自然が共生する大規模な野鳥公園ととらえ、国内外に発信できるような新しい環境モデルを構築していくべきです。
- また、アイランドシティ地区においては、みなとづくりエリアにおけるエココンテナターミナルの整備の拡大など、低炭素物流拠点づくりに取り組むとともに、まちづくりエリアにおいては、CO₂ゼロ街区の拡大など、豊かな緑に包まれた環境の創造と環境負荷低減の先駆的な取組みをさらに進めていくべきです。

人と自然が共生する環境づくり

環境モデル都市づくり

太陽光発電や燃料電池の導入による環境モデル都市づくり

低炭素物流拠点の形成

エココンテナターミナルを核とした、環境配慮型国際物流拠点の形成



○みなとづくりと環境の保全と創造の両立

- 船舶の大型化に対応した航路等の整備を推進していく必要があるとともに、一方では、博多湾の環境の保全や豊かな生態系の回復が求められています。
- このため、博多湾に関連する河川や森林とのつながりをとらえつつ、港湾においても、航路の浚渫によって生じる浚渫土砂の有効活用を図ることで、海岸整備、覆砂やアマモ場の造成等、底生生物の生息空間の創造などに取り組むなど、博多港の港湾整備と博多湾の環境保全と創造の両立を図っていくべきです。

博多湾における環境創造の事例

■窪地埋め戻しによる水域環境の改善事例



百道沖の窪地埋め戻し工事

■市民参加型のアマモ場づくり



小学生による
アマモの種シート作成



アマモ場の創造により
住みついた小魚

○緑に包まれた美しいみなとづくり

- 博多港では、香椎パークポート・アイランドシティ地区の新しいみなとづくりにおいて、ガイドラインを作成し、魅力ある景観づくりに取り組んできました。今後は、みなとのマイナスイメージを払拭し、博多らしい景観の演出や、緑に包まれた美しいみなとづくりへと誘導していくため、既存ふ頭も含めた公共・民間施設の更新時期をとらえ、適切な緑化や都市と調和した色彩やサイン等に関する景観形成ガイドラインを作成する必要があります。
- また、博多港の良好な景観づくりにあたっては、まずは、アジアから多くの方々が訪れる中央・博多ふ頭地区において重点的に取り組み、順次、博多港全体に拡げていくなど、段階的な取り組みが必要であるとともに、民間事業者と協力・連携していくための仕組みづくりを行うなど、実効性のあるものとしていく必要があります。

博多港の魅力を再発見 ～博多港の魅力ある景観資源～



港の躍動感を感じさせる アイランドシティ ガントリークレーン



夕日に映えるクルーズ船

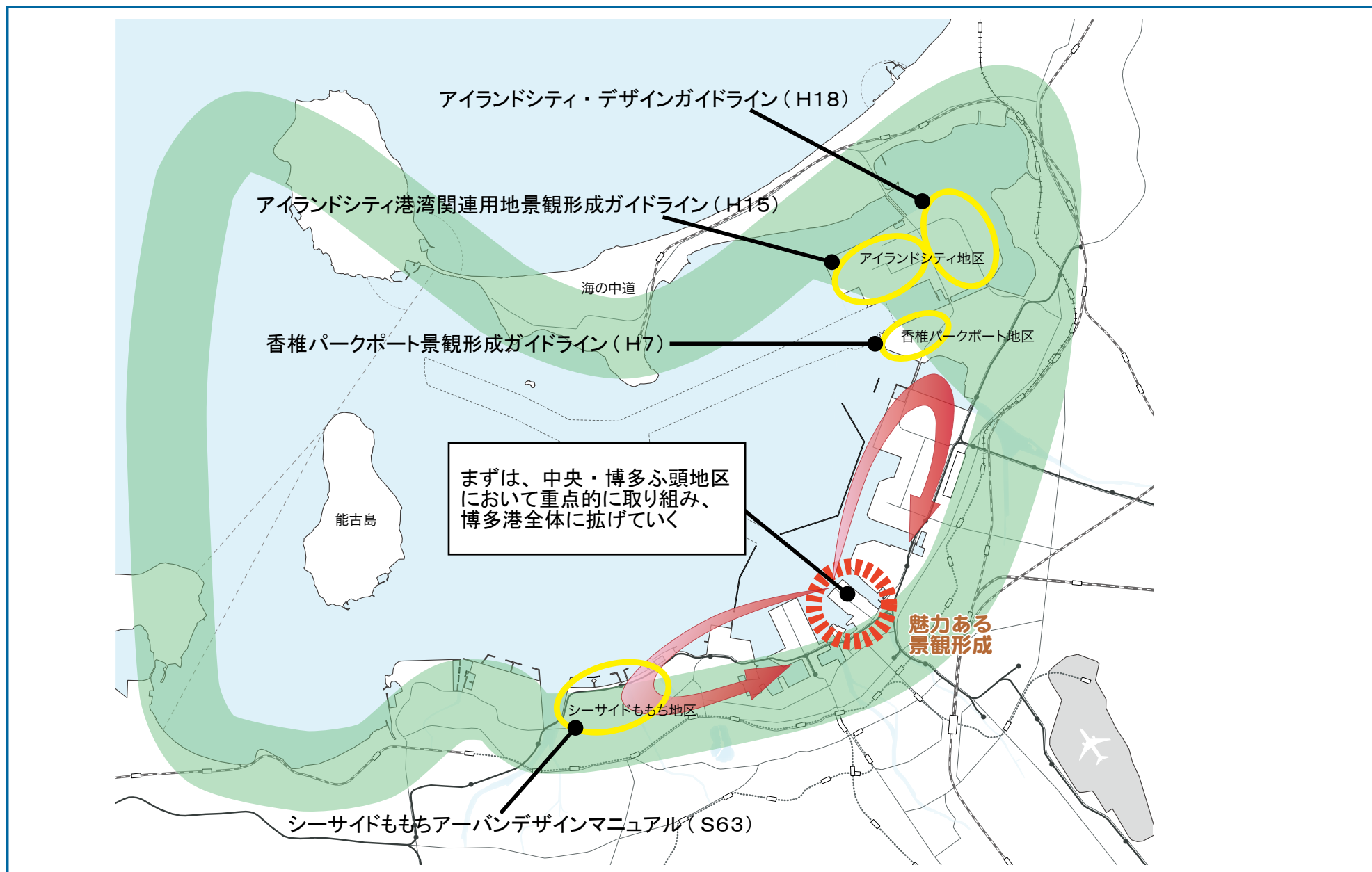


福浜の海岸から望む 福岡のランドマーク シーサイドもち



博多湾に浮かぶ豊かな自然に恵まれた能古島

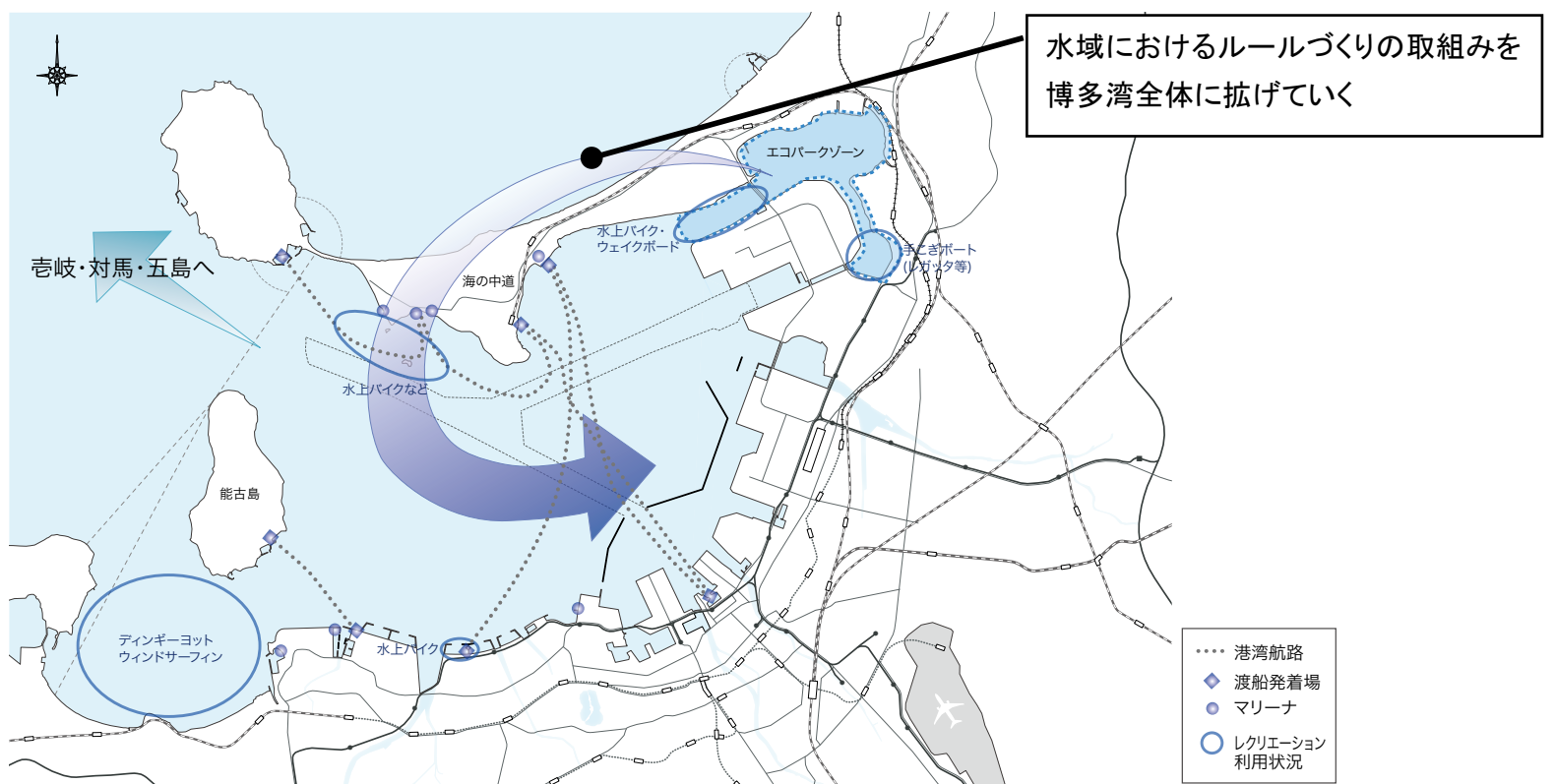
魅力ある景観づくり



○水域の活用による博多湾の賑わいづくり

- 博多港は、約1,100ヘクタールの陸域と、約7,600ヘクタールの水域から構成されていますが、この広大な水域については、航路・泊地等の港湾利用、湾内航路利用や漁業利用、レクリエーション利用など、様々な活用がなされる一方で、利用上のトラブルも発生しています。
- こうしたトラブル解消に向けた先駆的な取組みとして、アイランドシティ地区周辺の海域約550ヘクタールのエコパークゾーンを適切に利用していくため、プレジャーボート利用団体や漁業関係者、環境団体、学識経験者、行政で協議をし、自主的なルールづくりを行っています。
- 今後、こうした取組みを博多湾全体の水域を対象として展開するとともに、離島の観光振興を行うなど、多様な海上交通のネットワークづくりを進め、水域を活用した博多湾の賑わいづくりに取り組むべきです。

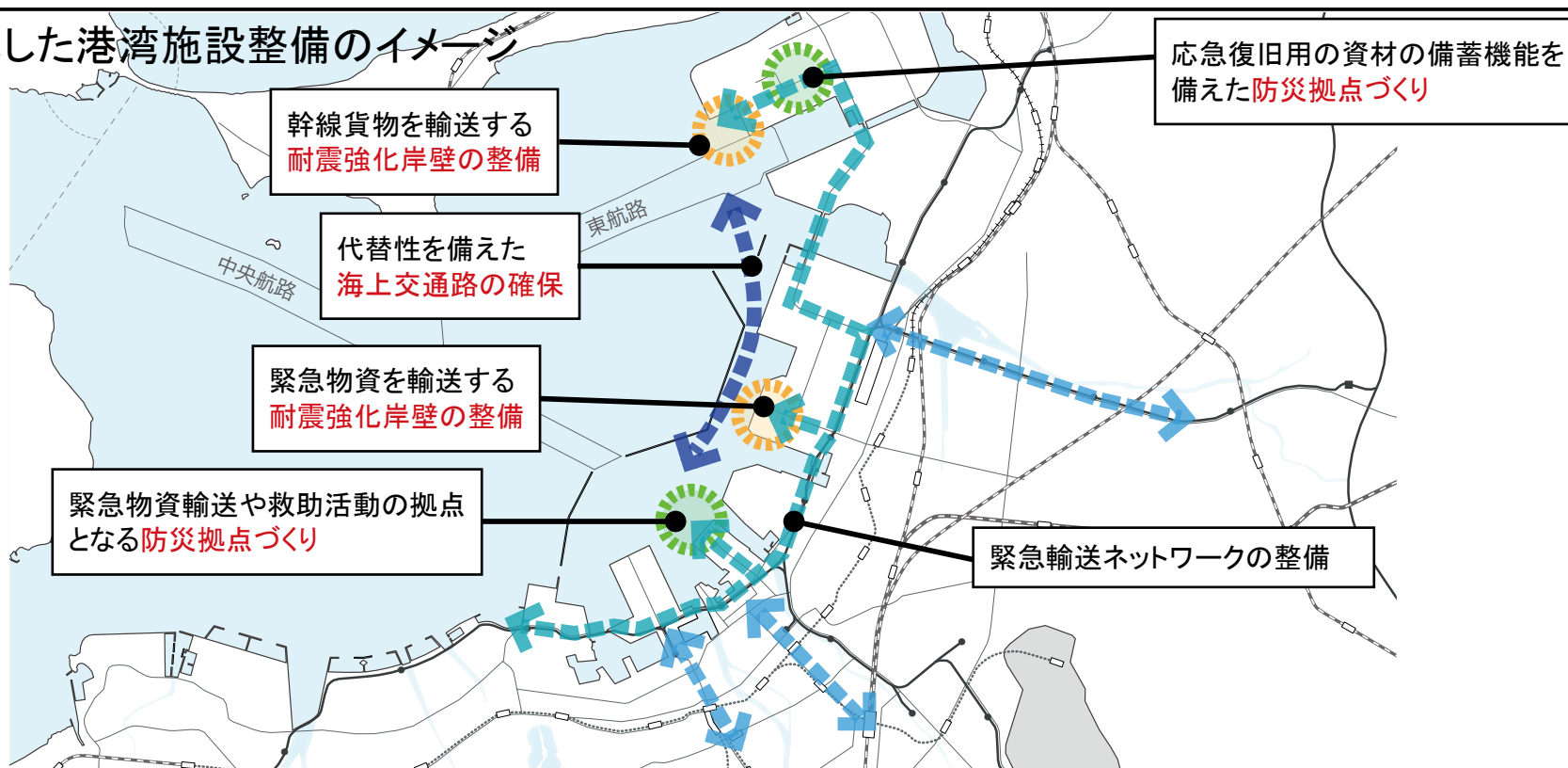
水域の賑わいづくり



○災害に強いみなとづくり

- 博多港においては、台風などの高潮対策のための護岸整備や液状化に対応した地盤改良等、災害に備えた港湾整備を進めてきましたが、今後は、さらに地域防災計画との整合を図りながら、大規模地震時においても、港湾機能を維持し、都市に安定的に物資を供給していくための計画をつくるなど、体制づくりが必要となります。
- このため、背後に人口が集積する都心部ウォーターフロントや、コンテナ輸送の主要拠点であるアイランドシティ地区において、緊急物資を輸送する耐震強化岸壁の整備や、臨海部における防災拠点づくりを実現するとともに、これらへのアクセスも含めた緊急輸送ネットワークの整備について取り組んでいくべきです。

災害に対応した港湾施設整備のイメージ



○広域交通ネットワークの充実・強化

- 博多港と背後圏を繋ぐ広域交通ネットワークは、円滑な物流を実現する上で欠くことのできないものです。
- 博多港においては、臨海部における物流動線として、ふ頭間を繋ぐ大動脈であるアイランドシティ地区から中央ふ頭地区までの約9kmの幹線臨港道路があり、各ふ頭に都市高速道路のランプが近接していることから、アクセス性に優れていますが、一般交通の流入や今後の物流の増加等に伴い、円滑な物資輸送を確保する上で、未整備区間のふ頭間道路の整備や背後圏の広域交通ネットワークの充実・強化が必要です。

※広域交通ネットワークの方向性

<アイランドシティ地区>

開発の途にあるアイランドシティ地区においては、これからも円滑な物流動線の確保が大きな課題であり、自動車専用道路の導入の促進など広域的な幹線ネットワークの整備が不可欠です。

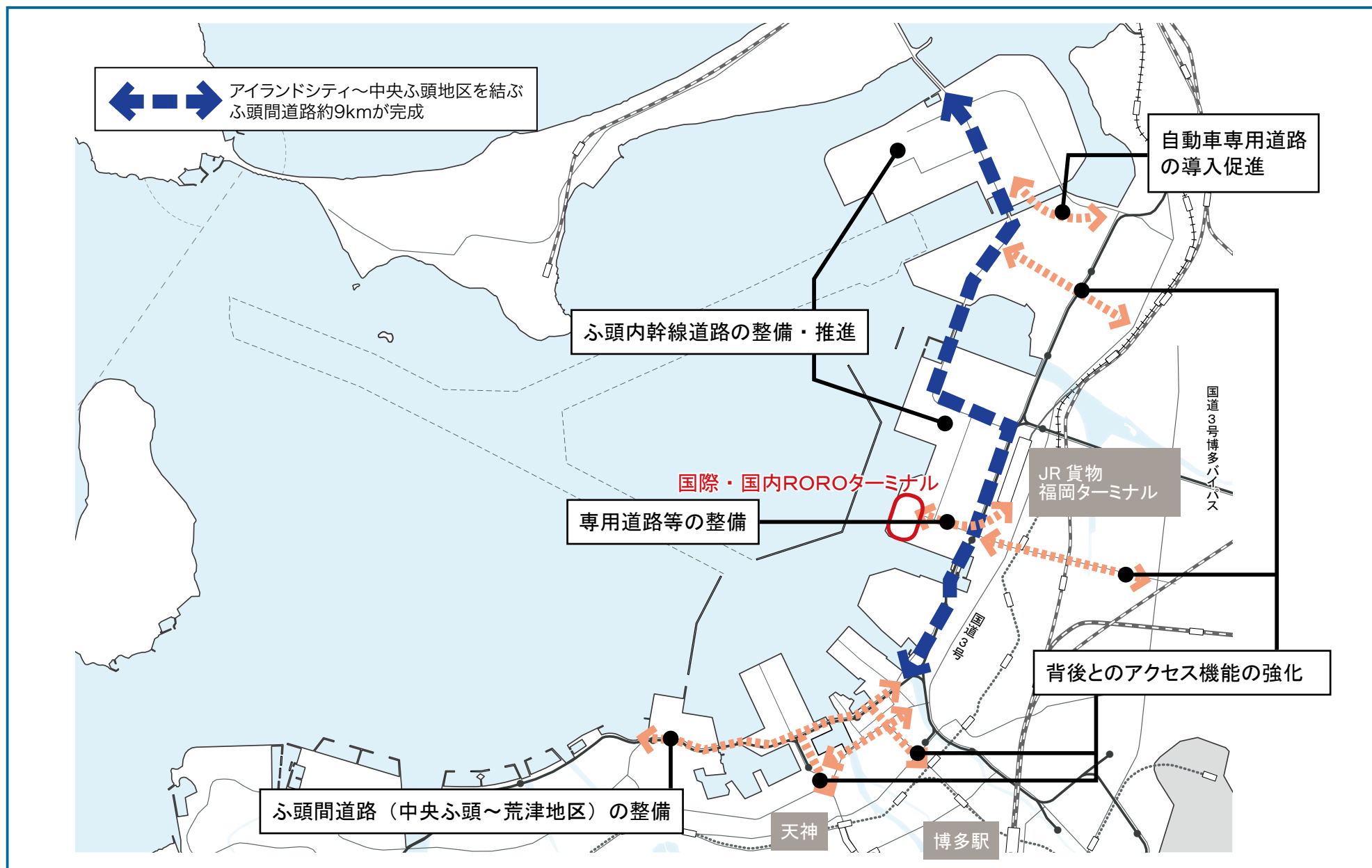
<箱崎ふ頭地区>

交通結節性を高めるため、JR貨物福岡ターミナルとの間のアクセス強化や、背後の広域幹線道路につながる交通アクセス機能の強化が必要です。

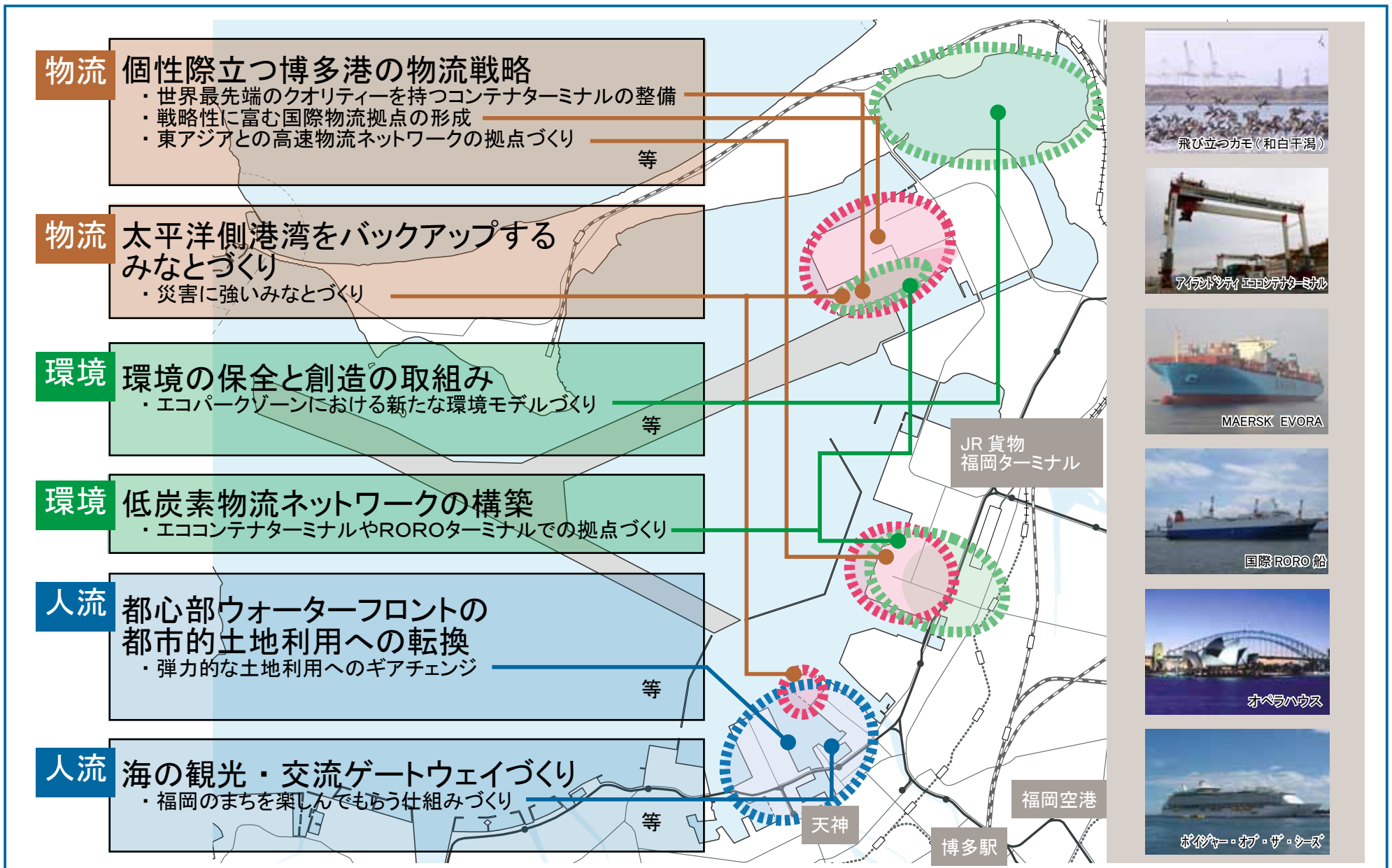
<中央ふ頭～荒津地区>

中央ふ頭～荒津地区を結ぶふ頭間道路については、暫定整備あるいは未整備であることから、円滑な物流動線の確保や都心に集中する交通負荷の低減を図る観点から、早期整備が必要です。

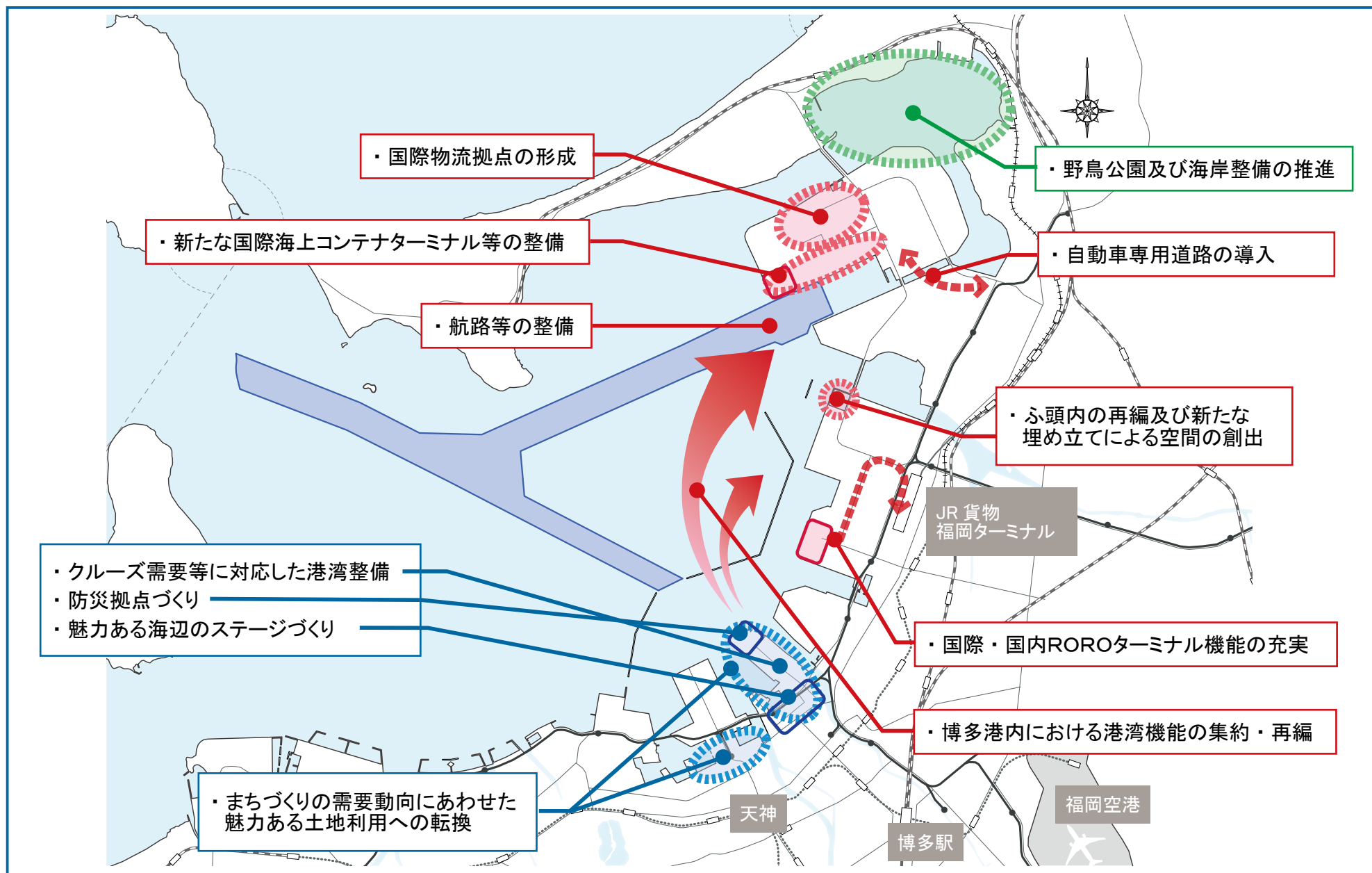
交通ネットワークの整備イメージ



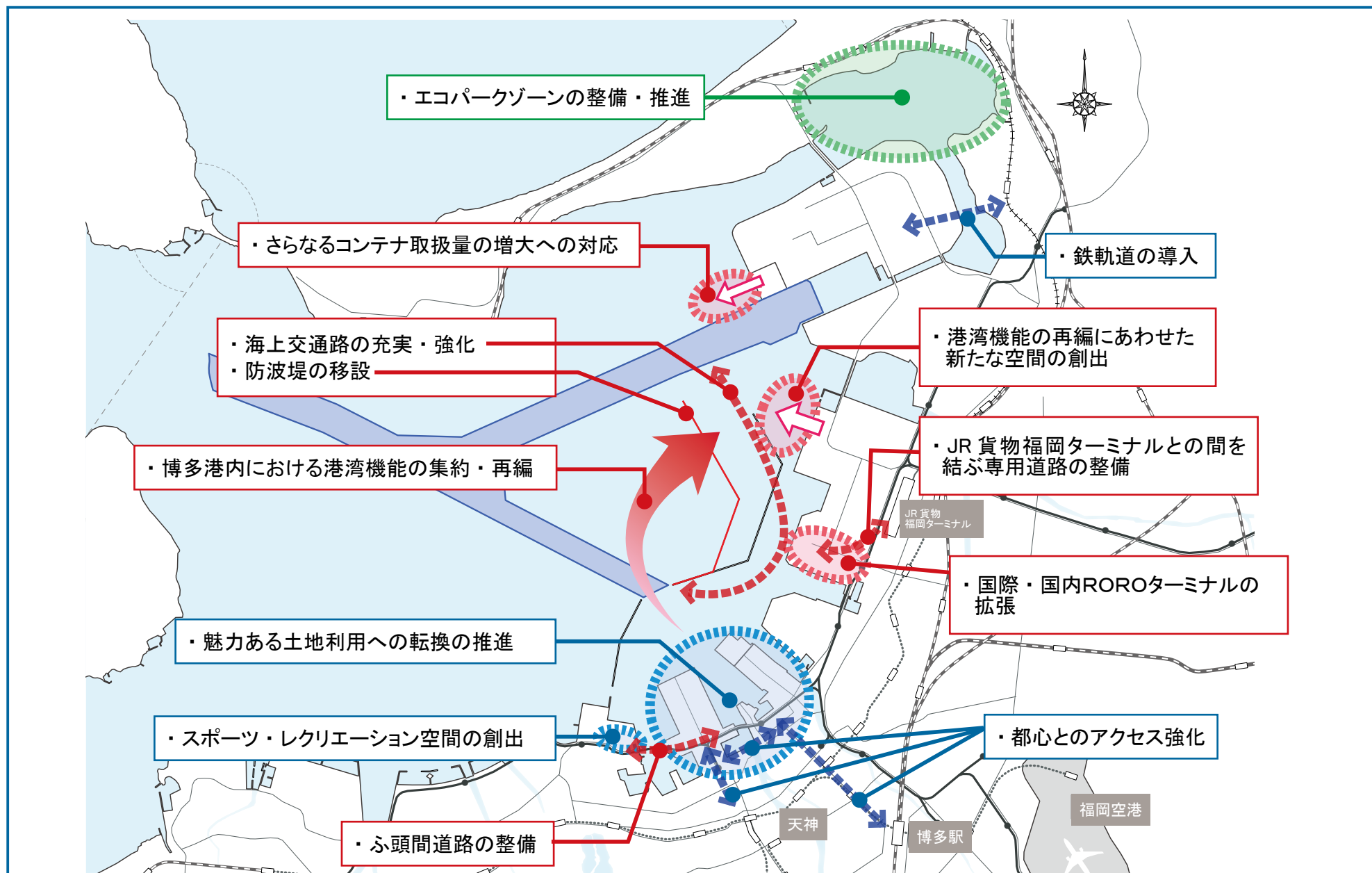
戦略とその実現に向けた主な取組み



ファーストステージ（概ね10年での取組み）



セカンドステージ（概ね20～30年後での取組み）



博多港の将来イメージ



■博多港長期構想検討委員会名簿

(順不同・敬称略)

	氏 名	所 属	職 名	前 任
委 員 長	鬼 頭 平 三	社 団 法 人 日 本 港 湾 協 会	理 事 長	栢原 英郎
委 員	井 上 信 昭	特 定 非 営 利 活 動 法 人 タ ウ ン ・ コ ン パ ス	理 事 長	
委 員	大 谷 鮎 子	特 定 非 営 利 活 動 法 人 九 州 キ ラ キ ラ み な と ネ ッ ト ワ ー ク	理 事 長	
委 員	角 川 敏 行	社 団 法 人 博 多 港 振 興 協 会	会 長	
委 員	神 崎 公 一 郎	株 式 会 社 プ ロ ジ ェ ク ト 福 岡	代 表 取 締 役	
委 員	小 島 治 幸	九 州 共 立 大 学 総 合 研 究 所	特 別 研 究 員	
委 員	鈴 木 弘 之	国 土 交 通 省 九 州 地 方 整 備 局	港 湾 空 港 部 長	梶原 康之 松原 裕
委 員	善 功 企	九 州 大 学 大 学 院 工 学 研 究 院	特 任 教 授	
委 員	高 木 直 人	財 団 法 人 九 州 経 済 調 査 協 会	常 務 理 事	
委 員	谷 川 徹	九 州 大 学 産 学 連 携 セ ン タ ー	教 授	
委 員	檮 木 武	財 団 法 人 福 岡 ア ジ ア 都 市 研 究 所	顧 問	
委 員	津 守 貴 之	岡 山 大 学 経 済 学 部	准 教 授	
委 員	納 富 昌 子	R K B 毎 日 放 送 株 式 会 社	メディア事業局専門局長	
委 員	野 田 順 康	国際連合人間居住計画(ハビタット)福岡本部(アジア太平洋担当)	前 本 部 長	
委 員	星 野 裕 志	九 州 大 学 大 学 院 経 済 学 研 究 院	教 授	
委 員	堀 田 省 吾	福 岡 海 上 保 安 部	部 長	石塚 照美
委 員	八 尋 脩	博 多 港 運 協 会	会 長	
委 員	山 崎 朗	中 央 大 学 経 済 学 部	教 授	
委 員	渡 邊 豊	東 京 海 洋 大 学 海 洋 工 学 部	教 授	